



第13号

高知県立高知国際高等学校だより

高知県立高知国際高等学校 KOCHI KOKUSAI Senior High School

〒780-8052 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

この1年

高知国際高等学校 副校長 足達 昇

高校に入学してからの8ヶ月間も束の間、令和3年も、はや暮れようとしています。

師走と聞いて、妙な慌たしさを感じるのは人々の常でしょう。学校という組織は年度単位で動いており、年間の行事が12月で終了するシステムではありません。しかし年の瀬には、時の流れを強く意識化する作用があるらしく、その1年を振り返りたくなる欲求に駆られます。

私個人としては、公私ともに変化が大きく自らの視野が広がった1年でした。なかでも、長年勤務した高知追手前高校から高知国際高校に転勤になったことは、大きな出来事でした。新しい環境に適応するだけでもかなりのストレスがかかるうえに、新任校は旧所属校とはまったくタイプの違う学校です。MYPとかDP、はたまたATLやTOKなどといった用語が、日常至るところで用いられています。この学校で勤務するからには新しいことを常に勉強しなければならない、という強迫観念を感じながら、第2言語習得理論やIB教育の手引き書を読んだことが思い出されます。新しいことを今まで以上に多く知った年でもあり、「生涯学習」というものが、理論ではなく生活の一部として身に沁みました。

ところでこの歳末を機に、ご家庭で、令和3年がどのような年だったか話をしてみてはいかがでしょうか。別に特別な時間を捻出し、形式張って行う必要はありません。ちょっとした時間に、肩肘張らずに、何気ない会話の一部として取り入れるのもよいでしょう。実はこの取組には思いのほか、よい学びが隠されているような気がします。

まず、自らを振り返る行為は、自身を客観視し、分類や統合、評価をしなければならず、メタ認知能力を高めます。そして、相手に伝えるためには対象を言語化しなければならず、思考力と表現力の向上に役立ちます。さらに、自ら反省しその変化（成長）を確認することは、自己存在の理解と自己肯定や将来への展望につながります。また、互いに話し合うことによって相互理解が生まれます。身近な存在であっても意外な発見があるかもしれません。自分と違う人格の体験や見方に触れると、視野も広がります。

年末年始は、家族で過ごす時間が多くなる時期。この機会を大切にできれば素晴らしいと思います。

行事や各発表会などの様子

パーソナルプロジェクト発表会

DPコーディネーター 石丸 右京

9月22日(水)に、グローバル科1年生が「パーソナルプロジェクト発表会」に挑みました。パーソナルプロジェクトは、国際バカロレアのMYPにおいて学びの集大成となる個人研究活動です。生徒自身が興味関心に基づいたテーマを設定し、探究のサイクル（探究・行動・振り返り）を使って研究を深めていきます。発表内容はバラエティに富んだものでした。高知国際中学校の生徒も全学年で参観し、将来の自分の研究の参考にしようと、熱心にメモをとりながら発表を聴いていました。

<発表タイトル> (一例)

- ・健康的な生活
- ・須崎市の医療問題を解決する
- ・色彩心理（イメージカラー）と印象操作
- ・海洋汚染を防いでいくには今後どうしたらいいのか
- ・子供でも簡単に作れる朝食レシピでよりよい生活を送ってもらおう
- ・なぜ海外で日本のアニメは人気なのか！～作画編～
- ・スポーツ大会と人権問題
- ・恋愛的な好きと、推しへの好きの違いとは



パーソナルプロジェクト発表会 各会場の様子

オープンHiスクール

数学科 授業担当 森 知子

10月6日(水)、7日(木)に令和3年度高知国際高校オープンHiスクール(中学生の体験入学)を行いました。中学生たちは、歓迎演奏、学校説明、施設見学、体験授業を受けました。体験授業では、積極的に発言してくれる中学生が多く、初めて会った中学生同士も話し合うなど、楽しく取り組んでくれました。

また、数学の体験授業には高校1年生グローバル科の生徒がアシスタントとして中学生に優しく対応してくれました。

<中学生の感想>

- ・自分だけでなく他の人と一緒に学習する楽しさを味わえた。
- ・コミュニケーションを大事にしている授業が自分にはぴったりだと思った。
- ・先生に頼るばかりでなく手順などを自分で見て進めていくスタイルがすごく良いなと思った。
- ・考えるってことがこんなに楽しいんだと思った。
- ・校内の設備や構造もとても充実していて理想の高校だなと思った。



アシスタントをする高校生

外務省高校講座

企画研修部 石丸 右京

10月26日(火)に「Japan's Diplomacy & Japan-US relations 日本外交と日米関係」と題して外務省一等書記官の多田崇氏(須崎市出身)にご講演いただき、高校1年生と中学校3年生がオンラインで参加しました。

多岐に渡る外務省の仕事や色々な国での活動などを、実際に勤務されている大使館職員の方々へのインタビューを通じて紹介してくださいました。講演の後半では、中学校と高校のうちに取り組んでおくことなど、私たちにエールも送ってくださいました。

<生徒の感想>

- ・語学力もそうだが、むしろもっと好奇心が大切だということや、一步踏む出すことの大事さがわかりました。
- ・外交官には色々なスキルが必要だということを知り、今の学校生活でそのスキルを育てておく、将来役立つんだと思いました。
- ・外務省にはたくさんの班があって、安全な国際社会を目指すためにいろいろな役割があることを知れたので良かったです。
- ・外務省と聞いて特別な人しか想像できないのかと思っていましたが、日本や世界の役に立ちたいなど好奇心がきっかけで目指す人もいるのだということに驚きました。
- ・今日のお話を聞いて英語はとても大事だということがわかったので、毎日コツコツ英語を頑張ろうと思った。



講座を受講する生徒たち

ななこカフェを開催

1年学年団

11月2日(火)に第3回ななこカフェを開催しました。昨年度、日本水大賞において環境大臣賞を受賞されたNPO法人黒潮実感センターより、神田優さんを講師に招き海の環境保全についてお話をいただきました。

<参加生徒の感想>

「マイクロプラスチックの怖さを感じました。食物連鎖を通じて、人間の体にもプラスチックが入っている現実を知りました。歯磨き粉の中にもマイクロプラスチックが使われているそうです。今までは利点しか見ていなかったものでもこれからはちゃんとマイナス面も考えた行動をしていく必要があると強く感じるようになりました。」

今後も様々な分野の専門家を招き、カフェのように気軽に話を聞く機会を設けていきます。次回のお知らせをお楽しみに。

数学授業：三角比の実験「大測量大会」

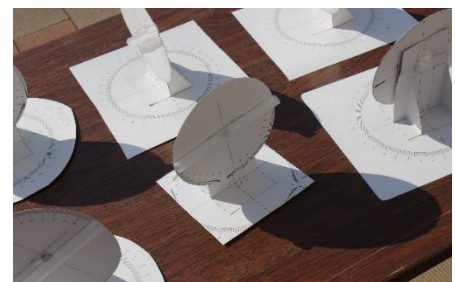
数学科 柴田 恭孝

「三角比」と言われるとどのようなイメージがありますか？サイン、コサイン、タンジェントが浮かんだ人もいいのではないのでしょうか。その三角比の知識と日常生活を結び付けて物事を考える実験を数学の授業で行いました。名付けて「大測量大会」です。

1年生の普通科の生徒が、10月27日(水)、28日(木)の2日間活動しました。4人1グループとして、1時間で測量機の作成と実験の流れを確認し、1時間で測量とクラスで結果の共有をしました。活動開始から個性あるグループ名をつけ、少しでも正確に測量できるように息を合わせて測量機を作成し、熱心さと丁寧さを感じました。測量当日は天気も快晴でどのグループもスムーズに測量と計算を行っていました。実際の南舎の高さは15.50mになります。結果は、ピタリ賞は1グループ、ニアピン賞(±0.3m)は8グループになり、どのグループも好成績を収めました。今回の実験からまた新たな視点で日常生活と数学の世界を結び付けて考えて欲しいです。



測量の様子



測量機

総文祭開会式参加

総務部

11月9日(火)に高知文化プラザかるぽーとで、第44回高知県高等学校総合文化祭開会式が行われ、本校からも生徒会の代表が参加しました。

<参加生徒の感想>

「展示について、写真や絵にとどまらず様々な作品が展示されていて驚きました。作者の意図は理解できなくても、様々な捉え方のできる作品を見て、大変面白いと思いました。特に印象に残っているのは、開会式での砂のアートです。ライオンが次の瞬間には鳥になり、砂でこんなに細かい表現ができるのかと感銘を受けました。」

ものづくり総合技術展参加

1年4H ホーム担任 秋森 陵二

11月12日(金)午後の時間に高知国際高校1年生全体でびばさんセンターに行き、第10回ものづくり総合技術展へ参加しました。数多くの県内企業が出展し、高知の優れた技術力や製品開発を知ることでものづくりの素晴らしさを感じることができました。グループごとに活動し、分野別のブースに移動しながら企業の話聞いて回ること、それぞれの企業努力や経営ビジョンに触れることができ、高知県内の企業の活躍を知ることやこだわりの製品を実際に触れたり、見たりすることで、新たな発見や知識を増やすことにつながりました。

また、企業の方々に自ら質問を投げかけたりする姿も見られ、積極的に情報を収集しようとする姿勢や前向きに取り組もうとする意欲は自身の将来を見据え、動き出しているように感じました。

今後の進路に役立てることができる有意義な活動となり、地元に興味関心を持つことや自身のキャリア設計に向けてのきっかけを作る貴重な時間となりました。



質問を投げかける生徒たち

◎須崎市・黒潮町フィールドワーク報告

1年学年主任 堂元 文

10月31日(日)は、「高知県高校生津波サミット」の一環である高知県内フィールドワークの日でした。高知国際高校からは、生徒2名と保護者が参加しました。

朝9時10分、小雨の中、須崎市にある『宝永津波の碑』の前に、生徒、保護者、引率教員、県教育委員会の方々の約30名が集まりました。高知大学名誉教授の岡村眞先生に、当時の地震や津波の状況を想像できるくらい詳しいで碑文の内容を解説していただきました。

そして長年高知大学が津波の研究してきた糸池(ただしいけ)に移動し、堆積物のサンプルについて説明していただきながら、この池は一千年近くの堆積物が確認できる世界でも稀な奇跡の池ということも教えていただきました。

須崎の次は、黒潮町の加茂神社にてフィールドワークがありました。加茂神社には、『安政津波の碑』があります。この石碑には、安政元年(1854年)11月4日午後4時過ぎに起きた安政南海地震における当時の惨状や後世の我々への警告が記されています。岡村教授によると、世界的にも非常に有名で、地震研究者なら知らない人はいない石碑だそうです。

私は近づいて、冷たい石碑とそれに刻まれた文字に触れてみました。すると、昔の方々が後世の私たちに命を守るすべを伝えてくれている温かさを感じました。教授は1,300年の歴史を有する日本だからこそ世界に伝えられるメッセージがあること、昔の方々の情熱そして知恵と工夫の素晴らしさを強調されていました。

また、大きな木が残っているところが安全な場所であることを教えていただきました。それは、大昔の津波でも流されなかったことを示しているそうです。そして大きな揺れよりも、小さな揺れが長く続く地震の方が津波が来る可能性が高いため、そういうときはすぐに高い方に逃げるよう、そして高い場所に上がってからでも8時間はそこに滞在するようアドバイスいただきました。

高知県に住みながら、このような石碑を訪れたことが一度もなかった私たちにとって、とても貴重な知識、経験となったフィールドワークでした。昔の方々の熱いお気持ちと知恵を有難く受け取り、南海トラフ地震に備えたいと思います。



フィールドワークの様子



津波の石碑

◎11月14日(日)高校生津波サミット報告

1年学年団 内間 春香

高知国際高校1年生の代表3名が高校生津波サミットに参加しました。オンライン開催でしたが、とても実りの多い時間となりました。東日本大震災を実際に経験された菊池のどかさんの講演や、高知県内の実践校である額北高校・宿毛高校・大方高校の発表に大変良い刺激を受けました。

また、高校生同士で意見交換を行うグループセッションの時間があり、そこでは高知国際高校の生徒が司会進行を務めました。山田高校・高知農業高校・佐川高校と4校で協力し合いながら、避難所運営・防災食・通学路の津波避難施設・津波以外の被害・避難バッグについて活発な意見交換が行われました。グループセッションの後は、全体に向けて本校の生徒がグループの様子を報告しました。司会進行や報告の場面では緊張する様子も見られましたが、3人も立派に役目を果たすことができました。

高校生津波サミットを終えて、この経験は大変貴重なものであると改めて感じました。この3人が防災のリーダーとして活躍して仲間を増やし、学校全体で防災の意識が高まることを期待します。



高校生津波サミットの様子

英語科

授業者(英語) 今村 加代子

今回の授業の視点は「生徒はATLを使う必然性があったか」です。概念は「つながり」、探究テーマは「共感することで時空を超えて人が繋がる」です。

今回の授業は、生徒が予習として、Google Jamboard にアップした質問を、授業時にそれらの問いに対する答えをグループで考え、内容理解を進めていくというものでした。生徒はコミュニケーションスキルやクリティカルシンキング・スキルを活用し、主体的な学習者として問題に取り組んでいました。またその他の活動においても間違いを恐れず、自発的な発言が多々あり、参観者からも「生涯学習者を目指している様子がよくわかった」、「思考力を鍛えている様子が垣間見られた」などのご意見をいただきました。

本文の内容はイラン・イラク戦争中にトルコ救援機がイラン在住の日本人を救出してくれた出来事と、100年以上前にトルコ軍艦が和歌山沖で遭難した際、日本人がトルコ人を救助した事件がどのように結びついていくのかというもので、当時の人々が示した気高い行動の中に、現代に生きる私たちが学ぶべき点が多くあり、生徒の心の成長につながる一助となれば幸いです。



英語の授業の様子

「確率と判断」

授業者(数学) 宇賀 義幸

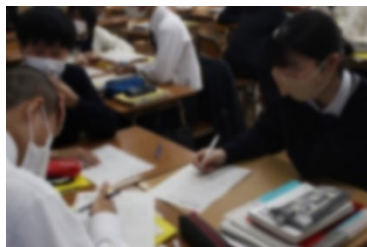
「降水確率40%、あなたは雨具を持ちますか？」
雨具を持つ人もいれば、持たない人もいます。また、「50%だったら持つ」という人もいるかもしれません。確率は「人が物事を意思決定する際の根拠となる」という特徴があると考えます。また、多面的に物事を判断したり、数値やデータを分析したりするため、ATLの中でも「批判的思考スキル」を意識することでよりよい学びがあると考えました。

今回の探究課題は、「30人中24人が『以前よりよく眠れた』と回答した新素材の枕は、効果があると判断できるか?」でした。

この課題に対し、「30人中24人が『よく眠れた』と回答したのは偶然か?」という問いを投げかけました。

生徒達は悩みましたが、ある生徒の「30枚のコインを投げて表が24枚出る確率を考えれば良い」という意見から、解決まで至りました。

大勢の参観者に臆することなく、一生懸命に探究する生徒の皆さんの姿勢が頼もしく、誇らしかったです。これからも数学を学ぶことを通して、人生を豊かにしていきましょう。



数学の授業の様子

その他の教科の様子



現代社会の授業の様子



家庭科の授業の様子

高知南中学校を訪問

企画研修部

10月26日(火)、高知南中学校出身の本校1年生が、高知南中学校3年生の進路学習の一環で訪問しました。

<参加生徒(高知南中学校出身)の感想>

私たち高校1年生が学校に着いて思ったことは、「懐かしい!久しぶり!」でした。久しぶりの高知南中学校高等学校に興奮する中、中学3年生にお話しさせていただきました。高1が2人ペアとなり、3・4人のグループの中へ入り、高校生へ向けての疑問に答えさせていただきました。勉強のことや授業のことなど熱心に話をきいてくれて私自身すごく気持ちよく話せました。

訪問の後には、ものすごく気持ちのこもった感想文をいただき、少しでも疑問や不安が少なくなっているなら嬉しいなと思いました。

<令和4年度 高知県公立高等学校入学者選抜の日程>

< A 日程 >

- 1月7日(金) 願書等配布開始
- 2月1日(火) ~ 3日(木) 出願期間
- 2月8日(火) ~ 10日(木) 志願先変更期間
- 2月14日(月) ~ 17日(木) 調査書等の提出期間
- 3月3日(木) ~ 4日(金) 検査実施日
- 3月14日(月) 合格発表

< B 日程 >

- 2月14日(月) 願書等配布開始
- 3月15日(火) ~ 16日(水) 出願期間
- 3月17日(木) ~ 18日(金) 志願先変更期間及び調査書等の提出期間
- 3月22日(火) 検査実施日
- 3月25日(金) 合格発表



高知県立高知国際中学校・高等学校
〒780-8052 高知県高知市鴨部2丁目5番70号
TEL : 088-844-1221 FAX: 088-844-4823
URL : <http://www.kochinet.ed.jp/kokusai-jh/>
Email: kokusai-jh@kochinet.ed.jp

